

正徳館

だより



県立正徳館高等学校
長岡市与板町東与板 173
TEL0258-72-3121
令和5年7月28日発行

学校長より

『一学期を終えて』

校長 羽豆 拓夫



保護者の皆様には、日頃から本校の教育活動に格別の御高配を賜り感謝申し上げます。最初に、一学期の学校行事の実施状況について御報告いたします。

【四月】始業式・入学式（七日、新入生十八名）、対面式（十日）、壮行式（二十五日）、地域貢献活動（楽山苑・井伊神社清掃活動）、交通講話（二十八日）
【五月】生徒総会（九日）、中間考査（十五日）～十七日）、オープンスクール・PTA総会・後援会総会（二十日）

【六月】避難訓練（六日）、スポーツフェスティバル（十六日）、保健講話（二十日）、期末考査（二十九日）～七月四日）

【七月】終業式（二十八日）部活動では、卓球部が五月に地区大会に出場。県大会への進出はなりませんでしたが、野球部は夏の全国高校野球新潟大会に四校合同チーム（正徳館・栃尾・分水・加茂農林）で出場。雨のため二日にまたがる県内公式戦初の「継続試合」となりました。新潟南高校と対戦し初戦敗退となりました。部活動に一生懸命に取り組んだ生徒は、普段の練習の成果を發揮しベストを尽くしてくれました。部活動をとおして学んだことをこれからの生活に生かしていかけてくれることを願っています。

次に、今年度になって新潟県教育委員会が発表した正徳館高校のスクールミッションについてお知らせします。各

学校の社会的役割、目指すべき学校像などを再定義したものです。本校のミッションは次のとおりです。

【地域に学び、地域とつながり、郷土を愛し、郷土を支える人材を育成する学校】

・地域と連携したキャリア教育をとおして、社会人基礎力を育み、豊かな人間性や社会性を備えた人材を育成する。
・小規模校の利点を生かしたきめ細かな指導と支援をとおして、自分の可能性を信じてチャレンジする生徒を育成する。

・地域に学び、地域とつながり、郷土を愛し、郷土を支える人材を育成する。

以上のミッションを果たすべく、教職員一同が保護者の皆様や地域の方々と連携をして教育活動を進めてまいります。皆様には今後とも御協力を賜りますようお願い申し上げます。

生徒活動報告

『正徳館高校に入学して』

一年生

私は正徳館高校に入学して良かったことが二つあります。

一つ目は先生との距離が近いことです。正徳館高校では、先生との距離が近いので授業で分からなかったところを休み時間や放課後などに聞きに行きやすいです。二学期は授業で分からなかったところを積極的に聞きに行きたいと思っています。

二つ目は与板のことをたくさん知ることができたことです。先日、受検した『よいた検定』に向けて講師の方が与板の歴史を細かく教えてくださいました。今まで与板のこととはほとんど知りませんでした。が、キャリアガイダンスIの授業の中でたくさん学ぶことができました。おかげで検定では一〇〇点を取ることができました。

このように私は正徳館高校に入学して良かったことが沢山ありました。これからも充実した学校生活を送りたいです。



入学式



避難訓練時の消火器操作体験

『楽山苑の清掃活動をとおして』

二年生

地域貢献活動では楽山苑の清掃をしました。去年は初めての清掃活動だったので分からないことも多く、言われたことしかできませんでしたが、今年は自分から積極的に行動できました。また地域の方ともコミュニケーションをたくさんとり、与板のことを教えてもらいました。清掃する前は雑草や落ち葉が多く汚かったのですが、ペットボトル等



地域貢献活動（楽山苑、井伊神社清掃）

人が出すゴミはほとんど無く、地域の人がマナーを守って楽山苑を大切にしていることが伝わってききました。色々な人と協力することによってスムーズに作業ができました。普段あまり関わらない人とも話すことができ、とてもいい機会にすることができました。私達は地域の方に日々支えられてもらっています。今回は私達が地域の方に恩返しができるようになったです。人との繋がりを大切に、地域の方にももちろん先生や自分の周りの人達への感謝を忘れずに過ごしていきたいです。

『スポーツフェスティバルを振り返って』

三年生

まず初めに、全校生徒が大きな怪我なくトラブルなく無事に終われたこと心から嬉しく思います。

私はスポーツフェスティバルの準備段階からハプニングが起きてしまい、少し大変な期間を過ごしました。この時の私はオープンキャンパスや奨学金申請の手続きも相まって、昼休みの時間がほぼなく、かなり多忙な日が数週間続きました。そのような状況で頭が回らず、行事運営委員招集の時や競技練習の時に対応し

きれず、先生や全校生徒を困らせることになりました。それでも生徒会役員の助けもあって何とか当日を迎えることができました。

当日もハプニングはあったもののスムーズに進み、皆が熱中して取り組んでいてとても良い行事にすることができました。最後には校長先生からお褒めの言葉を頂き嬉しく思いました。

まだまだ生徒会長として未熟な所もありますが、全校生徒が楽しめる行事にするためこれからの行事も精一杯努力していこうと思います。



スポーツフェスティバル(大玉送り)

『野球部で過ごした三年間を振り返って』

三年生

私は入学当初に部活動を決めることに非常に悩んでいました。なぜなら高校は中学と違って学習のレベルが高くな

るので、部活と両立できるか不安に思っていたからです。そんな時、野球部の先輩や平野先生に、野球部への入部を勧められて自分の気持ちが強くなり、入部することを決意しました。

そして三年生になり一番大変だったことは、連合チームの主将を任されたことです。春の大会が終了し、正徳館高校の他に栃尾高校、分水高校、加茂農林高校の四校が連合チームを組んで出場することになりました。春に初めて会う仲間たちとお互いにコミュニケーションを取っていくことは簡単ではなく、チームをまとめたり、活動の指示を出したりすることがとても大変でした。そして大会を迎えました。三年生全員が声を出し、積極的なプレーでチームを盛り上げていたことが一番印象に残っています。

新任の先生紹介

先生方への質問項目

① 人生で思い出に残っていること

② 生徒に一言

国語科教諭

① オーストラリアの高校で古典の授業をしたこと。台湾の占いに「芸術的才能が隠れている」と言われたこと。新型コロナウイルス感染症予防のための臨時休校中に同僚と授業動画を作成し、ユーチューバーとなったこと等、いろいろあります。

② 高校時代の私は、将来に夢が持てず、周りとは比べて自信を失ってばかりでした。先のことを決めたくなく、とりあえず大学に進学し、教職課程を取り始めたのは大学三年生になってからでした。私が国語の教員として正徳館高校でみなさんと出会ったのは奇跡としか言いようがありません。自分で決められず苦しい時は、変化を受け入れ楽しむという生き方もあります。どこでも幸せに生きていく力をつけていきましょう。

数学科科教諭

① 前任校に通勤する途中、大雪により、高速道路で立ち往生したことです。当初はただの渋滞だと思っていたのに、しばらくして立ち往生と気づいた時には動揺しました。喉の渇きや空腹と戦い、いつ動きがあるかわからない中、なんとか寝ようと試みました。夜中になつて、自衛隊の方から水とおにぎりをもらった時の安心感、翌日の昼過ぎ(三十時間後)に脱出できた時の解放感は忘れられません。

② 皆さんの得意なこと、続けていることは何ですか。挨拶がしつかりできること、休まず登校していること等、何でも良いですが、得意を伸ばす努力を継続していつてほしいと思います。

